



Technical Note 05-33

リストフォームの基本

By Daniel Do – 4D Technical Support
Technical Note 05-33

(原題: List Forms in 2004)

概要

リストフォーム(出力フォーム)の基本的な使用方法を解説します。

リストフォーム

リストフォームでは、レコードが一覧形式で出力されます。ユーザは、レコードを概観し、並び替えを実行したり、セレクションを作成して印刷したりすることができます。出力フォームとも呼ばれますが、フォーム上で直接レコードを編集することができます。特定のレコードをダブルクリックすれば、そのレコードが詳細フォームで表示されます。リストフォームは、DISPLAY SELECTION または MODIFY SELECTION コマンドで表示されます。

リストフォームをコマンドで表示する

DISPLAY SELECTION および MODIFY SELECTION コマンドには、類似点と相違点があります。

DISPLAY SELECTION ({table}; selectMode}; enterList}; *}; *)

MODIFY SELECTION ({table}; selectMode}; enterList}; *}; *)

コマンドは、プロジェクトメソッド、フォームメソッド、オブジェクトメソッドのいずれからでも実行することができます。

DISPLAY SELECTION は、テーブルのセレクションをリストフォームで表示します。デフォルトの設定では、ユーザがレコードをダブルクリックすると、レコードが最前面ウィンドウで表示されます。DISPLAY SELECTION を実行すると、自動的にテーブルの状態がリードオンリーになります。コマンドの実行が終了すると、状態が元に戻ります。

MODIFY SELECTION の場合、レコードが他のプロセスまたはユーザによって使用されていなければ、ダブルクリックで詳細フォーム、あるいは有効にされていれば、リスト更新モードでレコードの更新ができます。MODIFY SELECTION を実行すると、自動的にテーブルの状態がリード/ライトになります。コマンドの実行が終了すると、元に戻ります。

両コマンドの共通点

実行の時点でカレントレコードがないと、レコードが何も表示されません。そのような場合は FIRST RECORD や LAST RECORD などカレントレコードを指定した上でコマンドを実行します。

バージョン 2004 以降、コマンドで選択モードを指定できるようになりました。選択モードなしでは、クリックによるアクションがありません。単一選択モードでは、一度にひとつのレコードだけを選択できます。複数選択モードでは、Shift キー、Ctrl (Windows) または Command (MacOS) キーと組み合わせて複数のレコードを選択できます。デフォルトの設定は複数選択モードです。

リスト更新のパラメータを渡さない場合、デフォルトでリスト更新はできません。DISPLAY SELECTION にリスト更新のパラメータを渡したとしても、選択ができるだけでリスト更新はできません。テーブルがリードオンリーであるためです。

セレクションにレコードがひとつしかない場合、選択という動作があり得ないので、自動的に詳細フォームでレコードが表示されます。状況によってフォームが異なることに違和感があるのであれば、1 レコードをリストフォームで表示するモードを選択することができます。この場合、ダブルクリックで詳細フォームを表示してもスクロールバーはありません。この条件でスクロールバーが表示されるようにするには、ふたつ目の*を使用します。

キャンセル/確定

リストフォームから抜け出すには、標準アクションのキャンセルまたは確定を設定したボタン、ACCEPT や CANCEL を実行するオブジェクトメソッドを使用します。該当するインタフェースがない場合、Escape (Windows) または Esc (MacOS) キーを使用します。

DISPLAY SELECTION や MODIFY SELECTION の後、ユーザがハイライトしたレコードは、システムセット UserSet に保存されています。UserSet は、オブジェクトメソッドならボタンがクリックされた時、メニュー項目のプロジェクトメソッドの場合は項目が選択された時に利用できます。DISPLAY SELECTION や MODIFY SELECTION を実行したメソッドでは、コマンドが完了した時に UserSet が利用できます。

次のサンプルコードは、オブジェクトメソッド、プロジェクトメソッドのどちらでも使用することができます。

```

▼ If (False)
  ` Object Method: bPrint object on [Energy]Input form
  ` List Form in 2004 TechNote
  ` Created by: Daniel Do
  ` Date: 9/30/2005
  ` Purpose: Allows users to modify and print records from the [Energy] table
  <>f_Version2004x2:=True
  <>fD_Do:=True
End if
ALL RECORDS([Table1])
ALERT("Please choose some records:")
DISPLAY SELECTION([Table1];Multiple Selection;False;)
ALERT("Please edit some records. When finished, choose records to print:")
USE SET("UserSet")
MODIFY SELECTION([Table1];Multiple Selection;True;";")
PRINT SELECTION([Table1])

```

更新された動作

バージョン 2004 では、レコード数がウィンドウまたはリスト領域に表示できる行数に満たない場合にのみ、空の行が表示されるようになりました。スクロールするほどのレコード数がある場合、最後のレコードを超えてからの行をスクロールすることはできません。(現行の各種 GUI と合致しないため)

過去のバージョンからアップグレードされたサブフォームに限り、互換性維持のため「空の行をクリック」によるレコード追加が認められています。とはいえ、空の行が表示されない状況がある以上、このオプションの使用は奨められていません。

リストフォームにレコードを追加するには、ADD RECORD を実行するオブジェクトが便利です。サブフォームにサブレコードを追加するには、サブレコード追加という標準アクションを割り当てたボタンをメインフォームに配置します。

サブフォームにフォーカスが当たった際の点滅する三角印は、廃止されました。(現行の各種 GUI と合致しないため)